

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392600013		
法人名	社会福祉法人 双友会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護(介護予防)つつじのさと		
所在地	熊本県菊池郡大津町大字大津字前田1187-1		
自己評価作成日	平成24年11月27日	評価結果市町村受理日	平成25年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成24年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

つつじのさとでは、ゆっくり、利用者様のペースで毎日生活できるよう支援させていただいています。地域の行事・イベント毎に、地域住の一員として協力・交流しています。ホームでは、毎年恒例になっている敬老会・運動会では、家族の参加また協力していただきたくて楽しく時間を共有することができました。スタッフ皆が、専門性を生かしながら、認知症ケアの専門職として自信を持ち支援できるよう日々努めています。利用者様が毎日、安心して生活することができ、また、わがままが言える馴染みの関係をモットーにしています。季節に合わせて、さまざまな外出支援(外食)やホームでの行事を行い、利用者様の一瞬一瞬の思い、感動、喜び・笑顔ある姿を大切にしています。食事・サービス・設備は、ホテルに習い提供することを基本にしつつ、利用者様が安心できる馴染みの環境を目指しています。また、プライバシーが守られて、尊厳を保つことがホームの特色となるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者が馴染みある地で馴染みの人々や見慣れた風景の中で暮らす、地域密着型事業所の意義を職員一人ひとりがしっかりと認識し、ホーム周辺に点在する公共施設や行きつけの商店、山や畑の恵みを支援の中に十分に取り込みながら地域の中の一人として、入居者が存在感を持って生活する基盤を支えている。本年度スタートした各委員会の立ち上げは更なる支援の充実と職員の意識の向上や介護力アップに繋がり、管理者は「半年後の評価で体制が徐々に機能してきた」と語っており、職員それぞれが一つの役割を担うことで責任感や連帯感がより強固なものとなり、職員もまた地域の中の一人、ホームの中の一人としてその責務を真剣に果たしている。その取り組みは開所以来人々に浸透してきているところであり、今後も地元有志者や地域の人々の協力により更なる発展が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングでは、理念に振り返りながら、意識共有できるように努めています。利用者様が家族・地域と関わり持ちながら、家庭のような馴染みの環境のもとで安心して暮すことが出来るような支援を心がけています。	職員は入居者が地域の中で暮らすことの意義をしっかりと認識し、月のミーティングや毎朝二回の申し送りで理念を共有して日々の支援にスライドさせながら実践に向けた努力をしている。管理者は新しく入職した職員に地域密着型サービス事業所として、グループホームが果たすべき役割や、入居者への支援のあり方について触れ、職員自らが考え、行動するホームを目指している。運営推進会議の中でも理念に繋がるホームの方針を折に触れ紹介し啓発に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	つつじ祭り、地蔵祭りへ地域住民としての参加・交流、地域の座談会への参加も行いました。地域住民の見学や地域のボランティアの受け入れ行い、ホームの様子やコミュニケーション(交流)する機会を持ちました。図書館(本・映画会)、美容室の利用、地域の俳句の会、座談会にも参加・交流してます。	入居者に馴染みの商店が連なる地域を軸として周辺の散歩時に人々と挨拶を交わし、図書館での本の貸し出しや、映画会に出かけ、「俳句の会」には入居者の作品を出品して参加している。本年度は「自主防災組織」が発足し、職員が消火栓の取り扱いについて訓練に参加している。地域資源を活かした食材やパンの配達、ボランティアや見学者の受け入れ、大津ケアマネクラブ勉強会への会場提供など、地域の人々が足を運ぶ機会を支援している。	現在、話が進められている保育園児との交流や、中学生のナイスストライの受け入れなどに積極的に働きかけ実現に繋がることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症養成講座等を通して、認知症について病態から対応まで、地域の方へ発信するように努めました。認知症も他の病気と一緒に、誰でもなりえる身近な問題として理解して頂き、分かりやすく伝えるよう心がけました。家族や地域の方へ、認知症の事等について何でも気軽に相談して頂けるよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの様子を出来るだけ知って頂けるように努めています。会議の中で、メンバーである、区長、民生員、家族、行政等からの意見は、参考にさせて頂いています。また、要望には耳を傾け、実行また検討するようにしています。特に、看取り、サービスの種類等、災害の検討課題等を話し合い、意見をサービスに反映するように努めています	多機能ホームと合同で二ヵ月毎の定期開催が実現している。毎回、テーマは設定していないものの、地域の環境美化への取り組みや、行政担当者より防災対策について消防機関との意見交換を日頃から心がげることや、備蓄についての協力依頼などの意見や提案が出されている。前回の外部評価結果を受け、多機能ホームとグループホームより職員が一名ずつ輪番で会議に参加するなど改善を図っている。	会議への職員の参加は地域との繋がりを肌で感じ、寄せられた意見や情報を日々のケアに反映させることで大きな成果で繋がっている。今後も継続した取り組みに期待し、家族への議事録の開示方法を検討することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険法の法改正、介護保険の更新調査、新規サービス、短期利用共同生活介護(ショートステイ)の利用についての話し合い。利用者様の入院等による状況確認も行っています。待機者の状況や問い合わせ等常に連携を取っています。	管理者は家族からの相談事や制度上の疑問点などについて、電話相談や役所を訪れる確かな指示や助言を仰いでいる。退居後の空き部屋を活用したショートステイについて協議したり、行政担当者による推進会議への毎回の参加により、公的な立場から意見や提案を貰いながらホーム運営に反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守り支援を基本にしています。フロアや部屋の出入りも自由にいただけることが第一です。ベランダへの出入りができる環境で、支援体制を整えています。家族からの施錠の要望がある場合でも、昼間は基本的に開放し自由な出入りを基本に支援しています。	職員はスピーチロックを含む身体拘束について一つひとつの行為を正しく認識し、日々の支援に当たっている。管理者は新人職員にホームの方針と共に常に入居者の立場に立ち言葉を選択するよう指導している。職員通路はセンサーにより入居者や来訪者の出入りを確認しているものの、階上であることが外出の妨げにならないよう、入居者の希望に応じながら近隣の散歩に出かけている。	新たな取り組みとして食事や排泄、身体拘束や事故防止、レクリエーションや地域交流促進と言った各委員会を立ち上げ担当職員が企画、提案しながら更なる支援の充実を目指しており、今後は職員の提案による拘束についての内部研修などへ発展していくことに期待が持たれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の尊厳及び人権の尊重、プライバシーの保護は、基本であり、スタッフの意識共有が出来ていると思います。認知症を理解して、専門職として、自信と誇りを持ち、意識しながら安全な暮らしをサポートできるように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会等で知識を得て理解するように努めていますが、まだまだ、勉強不足な面もあります。今後も、スタッフ間で資料等を用い、定期的な、話し合いを持てれば、知識を深め、活用出来るようにしたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居また退去(解約)、法改正、契約内容変更などにおいて十分な説明を行い、理解して頂けるようにしています。また、家族の方が何か分からない事や不安、相談ごと等には、きちんと説明できるように努めています。話しやすい環境を第一にしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の状況や連絡事項等により、普段から連絡・調整するように心がけています。敬老会・運動会では、家族同士がともに集い意見交換等の情報交換の場になっているように感じています。家族の方の思いや要望(意見)等は大事にしています。	職員は入居者との普段の会話から意見や希望を聞き取り、食事や外出先の要望に出来る限り応じるよう努めている。表現困難な入居者へは行動の中から思いを汲み取ったり、食事については写真を見ながら入居者の興味を引き出し献立作りに活かしている。家族の意見、要望は面会時や推進会議、ホーム行事の席で収集し、入居者の服薬支援の中で出た意見には、主治医と他科医師との連携により薬使用を見合わせ様子を見ながら継続や中止の判断を仰ぐなど早急な対応が取られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2ヶ月に1回全体会議を行い、研修会を開いたり、委員会の反省会等も踏まえながら、職員間の意見交換する機会を大切にしています。今後も勉強会、外部研修後の復講等も交えながら意義のある交流機会が設けてあり、資質向上にも役立っていると思います。	管理者は多機能ホームや居宅支援事業所との全体会議で各事業所の課題や、意見を共に検討し、月のホーム会議や日々のやり取りの中で職員が自由に意見を出せる環境作りに努めている。又、全体を管理する統括責任者は2ヶ月に一回入居者や職員と昼食を共にしながら、それぞれの思いに耳を傾け運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課(P・D・C・A)が導入してあります。シートが反映出来るようまた見直し出来るようなシートです。頑張りや成果が見られる場合等は、賞与へ反映されるようになっていきます。各自のモチベーションを保つ上でも大切になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成では、全体の業務に関して、3ヶ月を目標に全体でサポートできるようにしています。個人への自己のスキルアップを念頭に置き、夜勤、日々の業務等は担当を付けて、経験してもらって自分で行えるように促しています。分からないければ、自分から聞くような姿勢を大切にしながら、早く慣れるようにしてします。まずは、施設内研修では、参加する姿勢を大切に、施設外研修では、新人向けの企画への参加を考えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、ケアマネクラブ勉強会やグループホーム協会で年4回勉強会等へ参加させて頂き、お互いの情報・意見交換を行い、業務に反映させたりしています。勉強会や研修会で交流することでネットワークが広がり、サービス向上することができています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で接し、ゆっくり環境に慣れて頂けるようにしています。共感・傾聴の姿勢で、まず馴染みの関係を築けるよう心がけます。家族への協力も大変重要ですので、協力して頂いています。他利用者様とも早く馴染めるよう関わり支援に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係を築く上で最初の関わりはとても重要です。何でも話して頂けるような関係を基本としています。家族の中でもキーパーソン以外の方との関係性も重要に考えています。家族の不安な気持ちを察しながら、安心できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様が環境に早く慣れて、安心して暮らせるよう支援することが大切だと思います。最初はできるだけ家族の方へ関わりを多く持ち関わって頂くようにしています。入居してからの状況報告をするように心がけて家族の方が安心されるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族ような関係で安心して生活して頂きたいと考えます。支えあい・認めあい・寄り添い、の理念のもと、家族も含め本人が主役になれる機会を提供できるように努めています。日々のコミュニケーションを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	正月、お盆やイベント、行事、病院受診等、家族との関わりはとても重要にしています。普段から、利用者様の状況や状態報告等を行い、家族の方と関わりは大切に信頼関係を築けるよう、利用者・家族が良い関係性を保ちつつ絆が保てる支援を考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族へ協力して頂きながら、故郷(実家)また自宅へ外出(帰宅)支援を行い、今までと変わらないような関係性を保てるようにしています。親族・友人・知人の面会時は、さりげなく声かけを行い、自室またリビングでゆっくり過ごして頂くように努めています。	美容室や図書館・喫茶店など入居者に馴染みの地域資源を活用している。ふるさと訪問には家族も協力し、生家や自宅への帰宅が実現しており、親戚や・友人の来訪を継続して支援している。音楽の好きな方や画を描く方など入居者の趣味や馴染みの品・こだわりの習慣を把握することで日々の生活の張りや充実に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の関わりはとても大切です。利用者同士も、お互い思いやりながら生活されています。リビングのソファや椅子の位置も、馴染みの利用者同士に配慮しながら、誕生会等により環境面にも働きかけています。日々のレクリエーションでは、共有できる時間にも配慮して、良い関係づくりを支援できるように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状態変化により、病院への入院等でその後の、状況が、たとえ、状態の回復が見込まれないようなときも、利用者・家族の方の為に、出来るだけの事をさせて頂いていると思います。家族の不安な思い等に配慮、フォローを行い支援するように努めました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや安心できる生活において、要望等を聞きながら、電話や手紙の支援をさせて頂いています。帰宅願望の方は、できるだけその方の思いに寄り添い、傾聴支援すること基本にしています。外出(外食)支援も大変大切に考えており、思いに応えるように努めています。	職員と入居者は同じテーブルを囲みながら昼食後も席を離れることなく、入居者の何気ない言葉に笑い声がわきおこり穏やかな日常が継続されている。職員は普段の生活の中で入居者の思いを確認し、個々に応じたプランに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活背景を把握するように努め、以前の生活の継続性を踏まえながら、支援しています。経過は家族の方へ報告すること重んじ、関わりのある生活を大切に暮らしが継続できるように考えています。利用者の役割は大変重要にしており、馴染みのある環境を提供できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々の身体・精神状態等を観察行い、把握するようにしています。生活のリズムを考えながら、その時の状態により、日々の暮らしに生かせるように働きかけています。調理、掃除、洗濯・たたみなど本人の役割ある生活を大切にしています。また、できるところは、本人へお願いするように促しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の生活を観察行いながら、要望や状態を把握するように努めています。担当者及び他スタッフからの情報提供等も大切です。担当者とのモニタリング行い、利用者様の個性を考えその人らしく生活できる支援方法を考えるようにしています。家族の方へも方向性を話し合いながら、ケアプランに反映するように努めています。	日々の支援の中から入居者の思いや暮らし方の希望を引き出しプランに反映している。入居者が長年にわたり培ってきた生活へのこだわりや残存能力(車イス利用者の床掃除への参加・食事前のテーブル拭きやランチョマットの準備・毎日の洗濯たたみ・計算問題への取り組み)などを個別プランにあげホームでの生活がより充実したものになるよう支援している。定期的なモニタリングで見直した変更事項は日々のケアに反映させ全職員が共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の状態は、日々変化しており、日内でも状態変化が見られています。経過記録・健康チェック・排泄チェック等、生活する上での記録が大変重要になります。ケアする上で各々利用者様の情報交換、情報共有することを大事にしています。主治医、家族への情報提供にもしっかりと伝え、反映するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームは、入居するという意味合いでは、施設的な状況になりやすいです。そのためにも、家族、馴染みのスタッフ、地域の関わり支援がとても重要になります。外出(外食)、地域交流、自宅外出支援等も常に考え働きかけるようにしています。本人・家族、地域の方々、スタッフとのつながりを保つようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様の生活する上で、地域と共存することが第一です。食材調達(精肉、鮮魚、野菜等)、お店(パン)、喫茶店、理美容等は地域資源を活用し、地域の行事・イベント等には、積極的に参加しています。地域が活性化できるように協働することを考えています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月始めには、定期受診を必ず行い、主治医へ状態を把握して頂くよう努めています。主治医との関わりを継続することで、家族への安心へつなげられるのではなかと思っています。利用者様の状態によっては、方向性を伝え、話し合い、経過を観察が必要などときも出てきます。状況によっては、皮膚科、眼科、歯科等への専門機関も考慮されます。	これまでのかかりつけ医の継続した支援や母体医療機関について説明を行っている。現在全員が協力医療機関をかかりつけ医とし、定期受診や緊急・夜間時の支援が行われ本人・家族の安心に繋がっている。他の専門医療受診(眼科・皮膚科など)に家族が同行する場合は、必要に応じ法人より情報提供書の作成が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々変化する利用者様の状態においては、看護師と協働は必要不可欠です。小規模多機能ホームの看護師へ、相談・連携・報告行っています。月始めの定期受診には、付添支援体制が整っています。医療面のアドバイスを頂き、管理者・スタッフ(介護職員)は、ケアにつなげながら、連携するように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この春には、利用者様の状態変化により、同日2名の救急車で搬送で入院がありました。別々の医療機関でしたが、双方の御家族様の不安、負担感を少しでも取り除けるよう、付添い支援に努め、病院関係者等へ情報提供を行いました。その後は、家族と経過観察、状況確認も行うために、病院へ足を運ぶことを心がけながら、方向性等を話し合っていくことが出来ました。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様のホームでの生活を継続する上で、長くなれば、さまざまな状態変化が出てくるようになります。それに伴い、最近では、看取りの必要性を感じる場面が見られるようになりました。状態悪化等あれば、本人、主治医、家族、管理者、スタッフで方向性を出せるように努めるようにしています。家族との普段の関わりを大切に、常に確認しながら、話し合うことを大切にしています。	現在は協力医との連携や職員の日々の健康管理により入居者の安定した生活に努め、ホームに出来る支援までを体制としている。入居者・家族共に慣れたホームでの最終的な支援を希望される意向も出されており、今後の看取り支援の必要性が課題とされる。	高齢化に伴い重度化や急変は否めない現状にあり、今後これらの状態を踏まえ職員のメンタル面にも配慮した勉強会の開催も必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	オンコール体制を整えており、緊急時の対応のマニュアル等も備え、対応できる手段を考えています。特に、夜間急変が見られる時は、状況により、主治医への連絡体制を整えています。マニュアルを活用しながら、普段の状態観察する力を養うようにしていますが、まだまだ、スタッフ間では急変時等の対応の仕方にも差があるのが現状です。皆が意識して経験する必要性を感じています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っています。実際の災害を想定してからの避難訓練ができるように、普段から、警戒区域を把握できるようにする必要があります。地域の防災活動へも参加させて頂いてますがまだまだ不十分です。避難協力体制や食糧確保が早急な課題です。	今年度二回、夜間想定自主訓練や業者による点検(二回)を実施する他、日頃から煙のでるオープン料理は換気扇が機能する場所で行うことや、厨房の整頓など意識を持って安全対策に努めている。地域の防災活動にも、一階の多機能事業所と共に参加し関係構築に努めている。	この夏発生した自然災害を風化させないためにも、GH防火安全対策のDVD視聴による研修会も行いたい意向である。また、普段より有事を想定した訓練の必要性や地域との協力体制、備蓄の準備などホームの課題をしっかりと把握している。取り組みに期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームでは、高齢者(認知高齢者)への基本視点に考え、ケアすることを心がけています。戸(ドア)へのノックをしての入室を行っています。居室の部屋及びトイレの戸は、基本的に閉まっていること。開けるには、他者へ分かるように掲示することを徹底しています。利用者が中心であり、お客様であることの意識し接しています。	認知症の高齢者への対応方法を職員は十分理解し、人格を尊重した対応に意識を持って努めている。ノックや了解を得ての入室をはじめ、塗薬を行う際も脱衣所や居室に誘導し支援するなどプライバシーに配慮した対応を心がけている。また、重要書類の事務所内管理、事例や写真などの個人情報を使用する際も家族の承諾を得ている。	管理者は今後同性介助の対応について検討の必要性を語っている。再度本人や家族の意向を確認し、職員配置などの工夫により希望に沿った支援が行われることに期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いに寄り添う姿勢を大切にしています。コミュニケーションでも、利用者によっては、ゼスチャーを交え身振り手振りで行う方が、伝わりやすいときもあります。外出(外食)等は、できるだけ希望を聞き、担当と検討して決めるようにしています。利用者様への自己決定の機会を支援できる姿勢でいます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床からの生活リズムを大切にしています。利用者のペースを大切にしながら、要望に応え自由な時間を過ごせるように支援しています。他者との関わりを保ちつつ、自分の時間(趣味等)も大切にもらっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様は他者と関わり合いながら生活されています。身だしなみの個別支援を大切にしています。外出時には、特におしゃれに気を配り、できるだけ本人の好きなもの(馴染みの服など)を選んで頂いて支援させてもらってます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の段階より、香りで朝昼夕の生活リズムを感じて頂くようにしてます。オルゴール調のやさしい音楽を聞きながら、馴染みの環境で美味しい食事を馴染みの利用者・スタッフで食べています。食事時には、テーブルにクロスを敷き、ランチョンマット・箸置き・おしぼりをする事でレストラン風な環境を提供、美味しく食事をするための雰囲気づくりを大事にしています。	楽しく・楽しめる食事支援となるよう職員は、調理の音や匂いからも入居者に食への関わりを提供している。地元商店から配達される鮮魚・精肉を活かした料理は、彩もよい季節感あるメニューとなって食卓に登場している。入居者も団子汁の団子のばしや天ぷらの下準備などできることを一緒にに行っている。入居者手作りの急須敷が各テーブルに配置され、職員と共に笑い声や笑顔の絶えない食事風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	年齢、体調、季節等、利用者に応じた食事・水分量等を加味し、食事提供するように心がけています。体重増加傾向の方へのカロリー摂取調整、血圧等、また、食べやすいように切り方へも個別に配慮して、減塩・薄味を基本にしています。		
42		○口腔内の清潔保持	口腔内のケアの必要性は重要だが、毎食後		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内のケアの必要性は重要な為、毎食後の口腔ケアを心がけています。各々の居室で歯や義歯の清掃等は、見守り声かけ（一部支援等）支援しながら、自立を促しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表（パターン）を用いて、各々の状況にあった排泄支援を行っています。リハビリパンツは自力でできる方へは、自立支援の考えのもとで支援してます。尿・便意のサインや排泄パターンに添い、排泄支援を行っています。トイレの場所が分かるように促し見当が付きやすいように支援してます。促し方でも、便所と書いたりしてと本人が分かりやすいよう支援させて頂いています。	排泄チェック表の活用により、本人の意思を尊重しながら排泄用品を選択し、自立の継続や気持ちの良い排泄支援に取り組んでいる。自室や『便所』と掲示された共同トイレなど個々に応じ使い慣れた場所できちんと排泄を支援している。また換気窓がないため、職員は臭気のないよう日々の掃除に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様における便秘において、大変苦労しています。利用者の方へは、食事またはおやつで定期的にヨーグルトを摂取して頂いたり、歩く機会を増やして、蠕動運動に働きかけ、からいも等の食物繊維を摂取することで便秘解消に努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、基本、月・水・金の週3回を基本にしていますが、利用者、家族の要望また状況等により、他曜日でも入浴（シャワーのみ）を行えるようにしてます。利用者の希望を踏まえ、季節に応じた、菖蒲湯、ゆず風呂、また、お茶風呂も行っており香りを楽しんでいます。	週三回の入浴を基本としているが、シャワー浴や清拭など状況により支援している。また、入浴委員会の中でマニュアルの見直しや、個々に応じた入浴が支援されているか検討している。菖蒲や柚子湯の他、職員のアイディアによるお茶風呂も好評である。浴室や脱衣所も清潔や整頓に努め、気持ちよく使用できるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活背景を把握、利用者の状態や体調等また生活パターンを把握しています。その人に合わせた休息時間を提供しています。昼食後には、昼寝の時間も大切に、夜間に影響しないよう、基本は30分位に留めていますが、その人の生活パターンにより、時間は調整し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬の作用等の把握は行うようにしています。また、状況に応じて、内服が追加する場合等は、副作用、症状の変化、食欲不振等へは、十分注意して要観察行い、主治医と報告(相談)してます。他医療機関からの内服等による副作用などへも報告(相談)行い調整等してます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、掃除、洗濯物干し・たたみ等を行い、感謝し必要としていることを伝えながら、生きがい感じて頂けるようにしています。絵画、音楽(テレビ)鑑賞、コーヒー、饅頭等も好きな方へはおやつで提供し、気分転換を図れるようにしてます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望・要望を聞いたり、また、季節を感じる事が出来る外出支援を大切にしています。ふるさと訪問として、その利用者の方が主役として、ドライブを兼ねた外出も行っています。認知症養成講座では、地域の方へ認知症を理解して頂き、サポーターとして何が出来るかを分かりやすく伝えていきます。家族の方の協力も大変重要で、利用者様の家族の絆が気づけるように促しています。	グループホームの入居者の外出支援がどのような形で支援されることが望ましいかを、管理者をはじめ全職員が理解し、認知症サポーターの育成、家族の協力を依頼しながら取り組んでいる。地域の図書館や歴史資料館・喫茶店やレストランへの外食に出かけたり、季節ごとのドライブの他、一人ひとりが主役となつてのふるさと訪問など、職員の思いやアイデアが活かされた多くの外出支援が聞き取りや資料から確認された。	入居者は多くの外出支援を日常や季節ごとに楽しみ、満足に繋がっている。今後も引き続き、外出時の記録写真を入居者や家族と一緒に楽しめる機会を持たれることに期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	病院受診時等は、手持ちがなく心配される方もいらっしゃると思いますので、付添いスタッフが安心されるように声かけしています。利用者様のお金は、預かり金としてホームでの預りになりますが、利用者・家族の希望で小銭を持ちたい方においては、自己責任で持って頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書くことが難しくなってきた利用者様へは、面会される時等に状況を伝えるようにしてます。また、家族、友人、知人等と連絡がとりたい時は電話での支援もおこなっています。面会時等にも伝えるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	見通しの良い環境の中で、生活感を感じることが出来るよう配慮しています。リビングでは、西側より、日が差すために随時ブラインドで調整行いを提供しています。季節の花や写真など飾り、居心地の良く、穏やかに過ごせる空間づくりを提供しています。光、暑さ・寒さ等の不快に感じる環境は、状況みながら調整して、取り除くようにしています。	二階にあるホームはリビングホールや居室のベランダ・同階にある会議室などから馴染みの地域の光景をのぞみ入居者に安らぎを与えている。花やツリーなど季節を感じる空間には緩やかな音楽が流れ、入居者は新聞を開いたり、ソファで日向ぼっこや談笑など思いおもいに寛げる空間が作られている。空気の入替えや室温管理と併せ、職員の個々に応じた語りかけも居心地の良さに繋がっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、ソファをコの字型(間に木製椅子を使用対応)設置、お互いの顔が見えるような環境にしています。各々、馴染みの場所があり、居心地の良い、自分の居場所を大切にしています。状態が悪く昼間に部屋で休んで頂く場合は、レク等する、音の大きさ等に配慮するようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋に、写真等を飾っている方、自分らしく、自由に過ごすため、テレビ、ラジカセを使用されている方もいます。家族の面会時には、ゆっくり気兼ねなく話をして頂けるように自室への声かけし、プライバシーへも配慮行います。また、ゆっくり過ごせるように、家族、利用者へおいしいお茶を提供しています。	その方らしく自由な時間を過ごせる空間となるよう、馴染みや好みの品々の持ち込みを依頼している。テレビやラジオ・孫の結婚式や家族の写真等、どの部屋も温かさが感じられる。職員は天候の良い日に布団を干したり、必要な方への表札掲示、家族による季節ごとの物品持参(写真やカレンダーなど)や衣類の入れ替えなど、日々入居者が居心地良く過ごせるよう、家族と連携しながら環境を整備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当識障害が強い方へは、分かりやすいように利用者様の表札を書いて貼ったり、トイレへも、利用者様が分かりやすい言葉として、便所と書いて、促し・声かけするようにしています。共用のリビングで団欒することで毎日生活感が感じれる様にしています。		